

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 宮城県白石市立白石第一小学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例：小中高一貫)
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒989-0259
宮城県白石市字半沢屋敷2番地の2
E-mail info@shiroishi-e.shiroishi-c.ed.jp
Website _____

幼児児童生徒数 男子 194名 女子 178名 合計 372名
幼児・児童・生徒の年齢 7歳～12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

「知・徳・体の調和がとれ、学校を誇りに思う子どもの育成」を教育目標とする本校では、地域や学校の伝統を生かした教育活動を行う事で、地域の人・自然・文化と関わる体験等を通し、生活と結びついた知識を身に付け、実践への関心や意欲を高めることを、ESDと捉える。

具体的には自分たちの学校や地域を知ること、コミュニケーション能力を育む事を柱に、①伝統文化・地域の歴史、②環境理解、③コミュニケーションに係わる学習を中心に行った。

① 伝統文化・地域の歴史

【3学年：学校を調べよう】

自分たちの学校の歴史や伝統、校歌や校章の由来などについて、図書館に出かけて調べたり旧知の職員にインタビューしたり等の調べ学習をしてまとめ、友達や保護者に発表を行った。



(1) 活動の概要

【 4 学年：日本の文化を知ろう 】

白石市の能楽堂施設「碧水園」で庭園の見学と、茶室で茶道、能舞台で日本舞踊の体験をした。

【 6 学年：白石再発見①会津に学ぶ、②白石を探る】

会津若松の歴史について調べ、修学旅行において現地を見学するとともに更に調べ学習を深めた。また、地域を歩いて史跡を知るとともに、会津藩との歴史的つながりを学んだ。

【 子ども育成会：ウォークラリー】

10月に92名の児童が市内の史跡を異年齢のグループで歩いて探検した。各史跡で地域の方の説明を聞いたりゴールで芋煮をする等、今年度で15年目の活動である。

② 環境理解

【 4 年：身の回りの環境を調べよう 】

地元企業による「地球温暖化」をテーマにした出前講座や本校に設置されている太陽光発電システムを調べることをきっかけに、環境問題についての課題を見付けて取り組んだ。

【 環境委員会・PTA：アルミ缶回収 】

資源の活用等環境教育の一環として年2回、全校を対象にアルミ缶を回収した。収益金で各教室に扇風機を購入し教室の環境整備に役立てた。

【 みどりの少年団 】

校内の花壇の整備等や年2回の緑の羽募金、サツマイモ栽培を通して自然を大切に作る心を育てている。「みどりの少年団宮城県大会」にも参加し、海岸防災林の植樹等を行った。

③ コミュニケーションに係わる学習

対話を通して互いの考えを深めていく「探究の対話（p4c：philosophy for children）」による思考力やコミュニケーション力の育成を行った。

円座になり、相手の意見を否定しない（ルール1）、コミュニティボールを持っている人だけが発言できる（ルール2）、相手の話をよく聞く（ルール3）等の7つの基本ルールの基に、学級会や道徳、教科等の時間に、自分たちで決めた問いをテーマとして対話を行った。傾聴の態度や思考力、発言力、相手を思いやる心を育てるとともに学級づくりに効果が見られている。



(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他 (<input checked="" type="checkbox"/> 探究の対話p4c)		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

〔3年〕「白石小物語」「白一小95年のあゆみ」「わすれずやま百年記念誌」「明治百年白石風物誌」「太陽光発電システム」
〔4年〕「JCCCA」「こどもプラザ」「全国地球温暖化防止活動推進センター」
〔6年〕「会津若松：あいばせ、会津若松市内マップ」「白石：白石市内ガイドマップ、白石市城下小十郎めぐりマップ、白石城下史跡処マップ」
他、インターネットで検索

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校は「自ら考える 心豊かで 健康な子ども ～知・徳・体の調和がとれ、学校を誇りに思う子どもの育成」を教育目標に、「地域（人・自然・文化）と関わる体験活動を大事にし～」を学校経営方針の一つに挙げている。相互の風習と生活を知り思想と知識が自由に交換される平和な国際社会を構築しようとするユネスコの理念を受けて、自分の学校や地域の人・自然・歴史・文化を知ることが、誇りと自信を育て、さらに他の地域や国の理解にもつながると考える。

主に総合的な学習の時間において、各学年の発達段階や学習のつながりを考慮し年間指導計画に活動を位置づけている。また、各活動は、各教科等との関連も図り効果的に指導している。

さらに、委員会活動をはじめ、みどりの少年団や子ども会育成会等も年間計画に位置づけ、学校関係者と連携して活動を行っている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

総合的な学習の時間は、教科等主任を中心に、各学年の活動の内容や学年間のつながり等の見直しを行っている。活動計画をはじめ関係機関への見学等の依頼や打合せ等必要なことは学年で引き継いでいる。委員会活動計画においても、前年度の反省も含めて次年度に引き継いでいる。

みどりの少年団や子ども会育成会の活動については、学校の担当者と組織役員が、計画立案から実施に至るまで打合せや連絡を密にとりながら実施している

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

年 2 回の職員による学校評価において、ユネスコスクール関連の活動も含めて、教育課程の評価・反省・改善策を PDCA のサイクルで行っている。さらに、児童の意識調査も行い、指導者が捉えた児童の変容と児童の意識のずれについてさらに検討し、課題解決のための改ざん策を実施している。

（例）「挨拶や返事の徹底」〔コミュニケーション力の育成〕について、児童の認識と教職員の評価にずれがあったので、さらに詳しい意識調査を行い、その結果を基に再度指導改善策を検討し実施した。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

活動のまとめを下学年に発表したり、活動の様子を学級、学年便りを通して保護者へ、学校便りで地域へ発信したりした。

「探究の対話 p 4 c」の研究および実践結果は、p 4 c 国際フォーラム in 白石において授業提供や実践発表の形で県内外の先生方や学校関係者に発信した。

以上の発信において、学校の教育活動への周知・理解が進んでいることが、保護者や学校関係者の話題等から伺える。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

○市内及び会津若松の文化施設及び史跡ガイドボランティア、子ども会育成会〔伝統文化・歴史〕

○PTA 専門部、地元企業、県・市みどりの少年団〔環境理解〕

○宮城教育大学上廣倫理・哲学教育研究室〔コミュニケーション〕

等と連携

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)
※チェック事項 2-4 に対応

今年度は、特にない。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

活動を通して歴史や伝統、環境に関心を持つようになってきたことが、活動のまとめや発表、児童の感想などから分かる。

また、「探究の対話 p 4 c」の実践により、子どもたちが自分なりによく考え、「自分の意見を積極的に発言できるようになってきた。」「学級としてのまとまりが感じられるようになってきた。」という教員の声が聞かれ、効果があがってきていることが分かる。

- (3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

今年度の活動を反省を基に内容を改善し実施の予定。

特に、「探究の対話 p 4 c」については、12月にそれまでの研究実践の成果を「国際フォーラム」で発表予定。